

# トラックドライバー魂

物流博物館では、昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵していますが、これまでに約100本に及ぶ記録映像のデジタル化を完了しました。このたび、デジタル化を記念して、その中からテーマごとに作品を選び、上映会を行うこととなりました。今後は月ごとに上映作品を変え、9月まで毎月1回の上映会を開催する予定です。色彩や傷等を修復し、新たに甦った過去の映像をぜひご覧ください。



「黄色い車－運転手心得より－」より



「アフリカ 10,000 キロ」より

2017年 **8月27日 (日)** 第1回：10時30分～12時20分  
第2回：13時00分～14時50分  
第3回：15時00分～16時50分

※下記作品を1日3回上映します。予約は不要です。 ※参加費は無料ですが、別途入館料が必要です。

<上映作品> ※①②はデジタルリマスター版による上映です。

①「黄色い車－運転手心得より－」

1958年／20分／カラー／製作：運輸新聞映画部／企画：日本通運(株)

脚本・演出：菅家陳彦

内容：汐留貨物駅を舞台に、ベテラントラック運転手と後輩の若い三輪トレーラ運転手が業務に励む姿を追う。汐留駅での荷役作業、都電の走る街並みを行く三輪トレーラなどが見どころ。

輸送を支えるトラックドライバーが登場する作品を通してその活躍と責任感、心意気を映像作品の中に探ります。

②「アフリカ 10,000 キロ」

1966年／29分／カラー／製作：JETRO 撮影班／企画：日本通運(株)

内容：ジェトロ主催の東アフリカ巡回展示の記録。24台の車両での3か月半に及ぶ日本商品紹介の旅の様子を描く。

③「未来街道エクスプレス アジア縦断 7000 キロ」

2015～16年／45分／カラー／第1～12回／制作：HEAD・JASC／企画：日本通運(株)

内容：上海からシンガポールまでの7000kmを走破し、国や地域を越えた物流を実現するトラック輸送サービスのようすを、車窓の風景やドライバーの仕事ぶりを通して紹介。

今後の開催予定

第5回 9月10日(日) テーマ：「超重量品輸送の世界」

【開館時間】 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】 毎週月曜日・毎月第4火曜日(これらが祝日・振替休日の場合開館)、祝日の翌日、年末年始、展示替等期間

【入館料】 高校生以上200円／65歳以上100円／中学生以下無料

\*団体20名以上半額

